

第4回 安威川ダム周辺整備検討委員会

資料2：安威川ダム周辺整備のあり方（資料案）

目次

- | | | |
|----|---------------------------|---|
| 1. | ダム周辺空間のエリア区分と性格設定 | 1 |
| 2. | 来訪者の行動パターンと空間整備の方向性 | 4 |
| 3. | 周辺景観整備の進め方 | 7 |
| 4. | ランドデザイン(案) | 8 |

平成20年9月22日

安威川ダム周辺整備検討委員会

1. ダム周辺空間のエリア区分と性格設定

基本理念を見据えた上で、安威川ダム周辺の場所毎の現況を考慮し、それぞれの空間の持つ性格の設定を行う。設定にあたっては、現況を考慮した保全と利用の考え方から「重視される空間保全」と「望まれる空間利用」を整理し、以下のように分類する。

①空間保全の分類

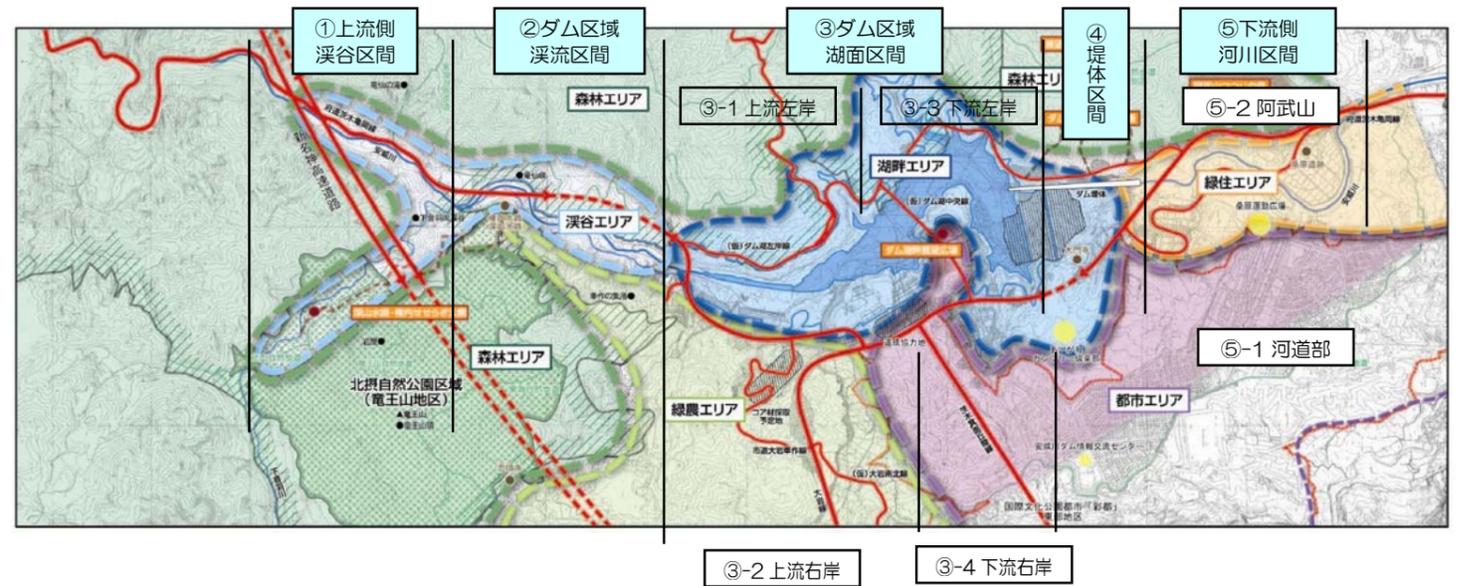
- ・現状保全……現況を自然環境保全の目的以外の改変を極力伴わないで保全する。
- ・付加保全……現況を活かし、空間利用の向上を図るための付加価値を施して保全する。
- ・創出保全……現況地形を改変あるいは改変された部分を、再生や空間利用の向上のために整備を施した上で保全する。

②空間利用の分類

- ・制限利用……自然環境保全や伝統文化・地域文化・慣習のため以外の積極的な利用を制限する
- ・山林利用……山林空間の環境を利用・享受する。
- ・水辺利用……ダム湖を含む水辺空間の環境を利用・享受する。
- ・平面利用……ダム事業により新たに創出した平坦地を利用する。

ここでは安威川ダム周辺のエリア構成を現況に従って5区間9区分にし、空間の性格設定を行う。

■安威川ダム周辺のエリア構成

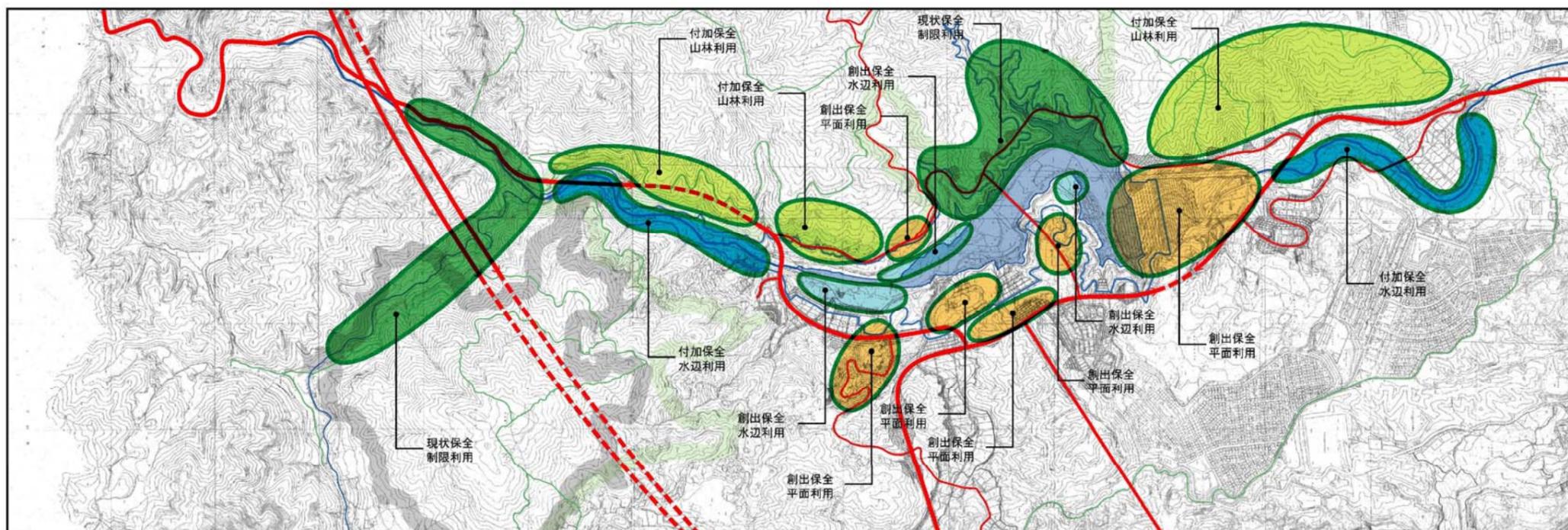
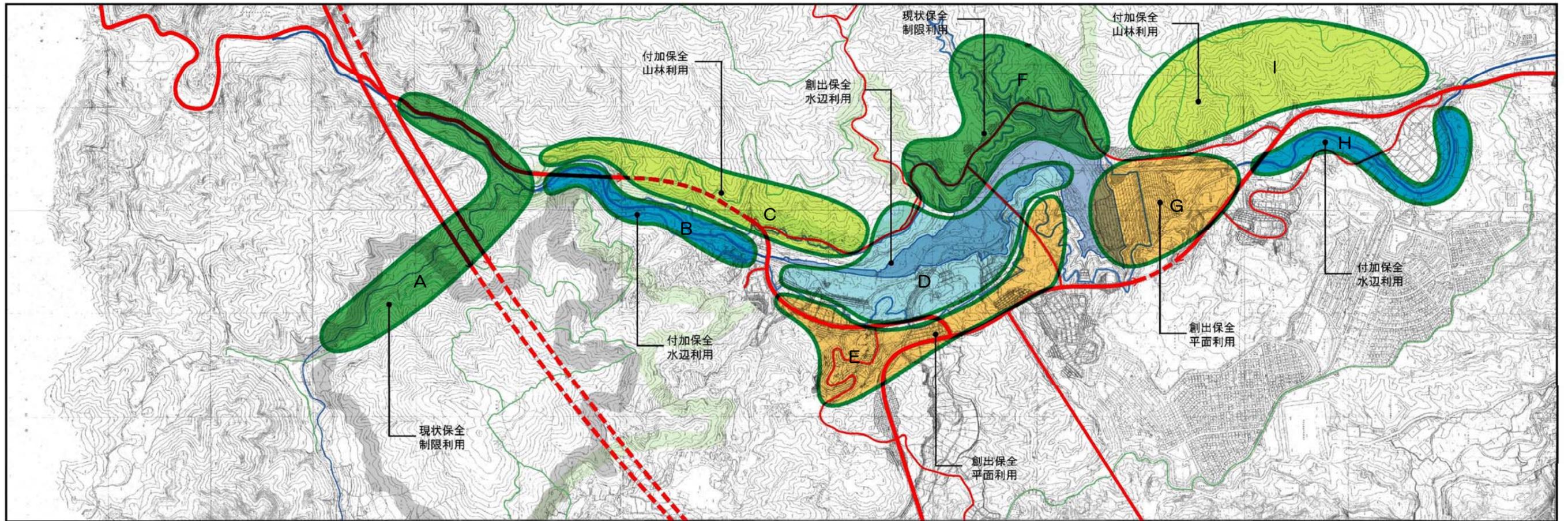


河川特性上の区間・区分 〈エリア構成〉	現況	ダム周辺空間の性格設定		
		重視される空間保全	望まれる空間利用	空間の持つ性格
①上流側渓谷区間 〈渓谷エリア〉	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺は渓谷地形のため、新たな利用地確保や水面へのアクセスは困難 ・府下でも希少なまとまった自然植生が稠密に分布 ・オオサンショウウオ、ヤマセミなどが生息 ・自然歩道沿いに伝統文化体験施設(炭窯)が整備 ・渓流から深山水路(歴史的利水施設)が引かれている ・音羽川渓谷と竜仙の滝が見山十景に選定 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境の保全を重視 ・自然歩道や既存資源の保全 	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の利用形態以外の利用は極力制限 ・自然歩道、既存資源の有効活用 ・自然歩道沿いの散策、自然観察、環境学習、体験学習等 ・新たな地形改変を伴う計画や利用方法は極力回避 	〈渓谷エリア〉 現状保全・制限利用 ※道路沿いは部分的に付加保全を考慮する
②ダム区域渓流区間 〈渓谷エリア〉	<ul style="list-style-type: none"> ・河道は良好な渓流環境をなす ・左岸側は急峻な山林となっている ・右岸側は現府道が併走し、背後地は山地と集落 ・川沿いに冠水頻度の低い狭小地が点在する ・まとまった自然植生や渓流等、府下でも希少な自然環境が残る ・湧水、瀬・淵、河畔林等が拠点的に分布し、アジメドジョウやオオサンショウウオなど特徴的な種が生息 ・竜仙峡は見山十選に選定され、周辺はマス釣りの他、水際利用も多い ・山林には林道が通り、東海自然歩道として利用が図られている。 	《渓流沿い》 <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境の保全を重視 ・渓流沿いの付加価値の向上 	《渓流沿い》 <ul style="list-style-type: none"> ・現状の利用形態は尊重 ・自然歩道、渓流の有効活用 ・渓流沿いの散策、水際での活動、自然観察、環境学習等 	〈渓谷エリア〉《渓流沿い》 付加保全・水辺利用
		《自然歩道沿い》 <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境の保全を重視 ・既存自然歩道の付加価値の向上 	《自然歩道沿い》 <ul style="list-style-type: none"> ・自然歩道の散策、風景探勝 ・自然観察、環境学習等 	〈渓谷エリア〉《自然歩道沿い》 付加保全・山林利用
③ダム区域湖面区間 ③-1 上流左岸 〈湖畔エリア〉	<ul style="list-style-type: none"> ・背後地の地形は急峻ではあるが林道(東海自然歩道)が通じる ・水際から河川区域外にかけて、段丘上に棚田跡地や棚田・溜池が残される。 ・左岸道路沿いに、冠水の影響を受けないゴルフ練習場跡地が残される ・溜池沿いに抽水性の植物やトンボ類等の種が生息する ・既存橋(登龍橋)により右岸側との往来が可能 	《湖畔》 <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境の保全を重視 ・棚田跡地の景観保全 ・湖畔の平坦地を利用した空間の創出 ・右岸側とのネットワークの形成 	《湖畔》 <ul style="list-style-type: none"> ・湖畔の有効利用 ・水際での自然観察、環境学習等 ・散策、風景探勝 ・水面利用 ・レクリエーション活動 	〈湖畔エリア〉《湖畔》 創出保全・水辺利用
		《山林地》 <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境の保全を重視 ・里山の保全による湖畔とのネットワークの確保 ・棚田や溜池空間の保全 	《山林地》 <ul style="list-style-type: none"> ・自然歩道の散策、風景探勝 ・自然観察、環境学習等 	〈湖畔エリア〉《山林地》 付加保全・山林利用
		《地形改変地》 <ul style="list-style-type: none"> ・地形改変地の再生 	《地形改変地》 <ul style="list-style-type: none"> ・地形改変地の有効利用 ・レクリエーション活動 ・左岸側の拠点施設、駐車場 	〈湖畔エリア〉《地形改変地》 創出保全・平面利用

河川特性上の区間・区分 〈エリア構成〉	現況	ダム周辺空間の性格設定			
		重視される空間保全	望まれる空間利用	空間の持つ性格	
③ダム区域湖面区間	③-2 上流右岸 〈湖畔エリア〉 〈都市エリア〉 〈緑農エリア〉	〈大岩川以北〉 ・水際の平坦地から高低差のある擁壁を経て農地(代替農地)、付替府道へと至る ・一部を残し全体的に地形改変が行われた ・水際の平坦地は現府道に接し、ある程度の広さも有するが冠水頻度は高い ・車作集落方面からのアクセスが可能。 ・既存橋(登龍橋)により左岸との往来が可能 ・代替農地に隣接して付替府道に接する冠水しない平坦地が確保できるが、面積は小さく水際との高低差が大きい ・付替府道を経て、コア採取地が位置する	《湖畔》 ・自然環境の再生と創出 ・地形改変地の再生 ・周辺景観に調和した既存構造物の工夫 ・湖畔の平坦地を利用した空間の再生と創出 ・左岸側とのネットワークの形成	《湖畔》 ・湖畔や地形改変地の有効利用 ・水際での自然観察、環境学習等 ・水面利用 ・レクリエーション活動 ・散策、風景探勝 ・背後地との動線、主要道路とのアクセスの確保 ・車作集落との連携	〈湖畔エリア〉《湖畔》 創出保全・水辺利用
		〈大岩川以南〉 ・水際からは緩やかな長大法面や自然地を経て造成平地、さらに付替府道に接する造成協力地に至る ・造成により大きな法面や平坦地が確保される ・河川区域内の平坦地は冠水頻度は低いが、付替府道や水際との高低差を生じている。 ・造成協力地は民地で、前面の付替府道は大岩線や茨木箕面丘陵線ともつながり、将来的な交通量が見込める	《背後地》 ・自然環境の再生と創出 ・地形改変地の再生 ・大岩川以南とのネットワークの形成	《背後地》 ・地形改変地の有効利用 ・散策、風景探勝 ・ドライバーの休憩等 ・右岸側の拠点施設、駐車場 ・湖畔との動線の確保 ・周辺住民の様々な活動 ・大岩川以南との一体利用	〈緑農エリア〉《背後地》 創出保全・平面利用
		〈河川区域等〉 ・地形改変地の再生 ・自然環境の再生と創出 ・周辺景観に調和した既存構造物の工夫 ・背後地との動線の確保 ・冠水頻度の低い河川区域内の平坦地を利用した空間の再生と創出 ・大岩川以北とのネットワークの形成	《河川区域等》 ・地形改変地の有効利用 ・風景探勝 ・レクリエーション活動 ・大岩川以北との一体利用 ・主要道路や湖畔からのアクセスの確保 ・右岸側の拠点施設、駐車場 ・湖畔との動線の確保	〈湖畔エリア〉《河川区域等》 創出保全・平面利用	
	③-3 下流左岸 〈湖畔エリア〉 〈森林エリア〉	・水際から背後地にかけて山林が広がり、地形は急峻 ・左岸道路が通るが水際や背後地へのアクセスは困難 ・道路工事以外にはダム事業による地形改変は伴わない	・右岸側から眺望する景観緑地として保全 ・現況の自然環境の保全に重点 ・森林を景観緑地として良好に保全	・新たな地形改変を伴う計画や利用方法は極力回避 ・従来の利用形態以外の利用は極力制限 ・左岸道路沿いの散策、風景探勝やサイクリング	〈湖畔・森林エリア〉 現状保全・制限利用
	③-4 下流右岸 〈湖畔エリア〉 〈都市エリア〉	・生保半島先端の水際に小規模な平坦地が残されるが、周辺地形は急峻なため水際沿いの動線確保は困難 ・河川区域外には平坦地(グラウンド)が残される ・湖面道路やダム湖展望広場が計画される	《湖畔》 ・自然環境の再生と創出 ・湖畔の平坦地を利用した空間の創出	《湖畔》 ・背後地との連携、動線の確保 ・湖畔の有効利用 ・水面利用 ・レクリエーション活動・散策、風景探勝	〈湖畔エリア〉《湖畔》 創出保全・水辺利用
			《背後地》 ・周辺環境や景観と調和のとれた空間整備	《背後地》 ・ダム及びダム湖を展望する空間整備 ・レクリエーション活動 ・風景探勝 ・ダム湖左右岸を結ぶ拠点、駐車場 ・ドライバーの休憩等	〈都市エリア〉《背後地》 創出保全・平面利用
④ダム堤体区間 〈湖畔エリア〉	・堤体等の築造により地形改変が大きく行われる ・周辺地形は急峻 ・ダム直下に造成平地が残される	・地形改変地の再生 ・周辺地形の保全	・地形改変地の有効利用 ・ダム天端及び直下の有効利用 ・散策、風景探勝 ・ダムを利用した施設見学、社会学習、体験学習 ・周辺地との歩行者動線の確保	〈湖畔エリア〉 創出保全・平面利用	
⑤下流側河川区間	⑤-1 河道部 〈緑住エリア〉	・洪水吐直下は急峻地形の中で溪流の様相を成すが、ダムの完成により環境変化が予想される ・溪流の水際利用も確認される ・桑原集落から下流の河道は改修が予定されている	・ダム洪水吐下流の溪流区間は、現在の溪流環境を保全 ・ほ場整備と河道改修の施工区間は、自然環境の保全・再生に努める ・集落及び川沿いのネットワークの形成	・溪流の利用のための付加価値を高める整備 ・水際での自然観察、環境学習 ・溪流におけるアウトドア活動 ・川沿いの散策 ・下流部河川の水際でのレクリエーション活動 ・川沿い及び集落との動線確保	〈緑住エリア〉 付加保全・水辺利用
	⑤-2 阿武山 〈森林エリア〉	・植林地を中心とした民有林 ・武士自然歩道が通っており眺望が期待できることから、左岸道路の整備とあわせて遊歩道の設置が計画される	・良好な植林地環境の保全 ・現在の山林環境の利用と保全に重点 ・自然歩道と既存資源の保全	・良好な植林地環境の有効利用 ・自然歩道、既存資源の有効利用 ・散策、風景探勝 ・歴史探訪 ・森林組合と連携した体験学習 ・休憩施設を兼ねた眺望箇所の整備 ・阿武山とダム堤体付近をつなぐ歩行者動線の整備	〈森林エリア〉 付加保全・山林利用

ここまでの検討で、先に分類された安威川ダム周辺の9区分は、5種類の「空間の持つ性格」により下段図のとおり16箇所に細分された。
 しかしダム湖周辺では右岸を中心に地形改変地が広がる現況を反映し、空間整備の観点からは「創出保全」が多い結果となった。
 以上の結果を再編し、とりまとめたものが上段の空間特性図である。最終的に9つの空間特性に整理された。

■空間特性図



■16箇所に細分された空間特性検討図

2. 来訪者の行動パターンと空間整備の方向性

(1) 来訪目的の想定と環境寄与を考慮した利用促進方策

基本方針で示された「北摂のシンボル空間」としての展開に向け、地域環境で対応可能と考えられる府民のレクリエーション需要に応え、かつ水源地域の振興や地域間交流の

活性化に寄与する範囲において、来訪者の環境享受型及び環境寄与型の行動パターンとその促進方策をいくつか想定した。そこから環境寄与を促進し、また利用を促進する方策を検討するものとした。

来訪の目的		環境享受型の行動パターンと促進方策		環境寄与型の行動パターンと促進方策	
来訪の主たる目的	来訪者属性	環境享受型の行動パターン	利用促進方策	環境寄与型の行動パターン	環境寄与の促進方策
＜水環境＞ ダム湖の水環境を楽しむ (水辺、湖面、溪流)	日常の活動 目的来訪者	・ダム湖とダム湖に映える四季の森林景観の探 勝(休息、散策、サイクリング、ドライブなど) ・ダム湖周辺の生態系(植生、魚類、昆虫、 野鳥)との触れあい	・イベントでの集客及び継続的活動プログラムの 企画運営、広報 ・公共交通機関の充実 ・アクセス拠点としての駐車場の確保(散策、 サイクリング等の活動拠点) ・環境保全、施設維持管理の徹底	・生態系の保全活動、水辺の自然再生 ・水質調査・改善、水辺清掃への参加と 指導など ・ゴミの持ち帰り、ゴミ清掃	・説明板や禁止行為の案内などマナーの向上 ・保全活動団体の組織化と活動参加の拡大、寄 付などの活動資金提供
	休日等の活動 目的来訪者				
	ネットワーク 観光の立寄者				
＜環境保全＞ 美しい森と湖の 環境保全活動を楽しむ	日常の活動 目的来訪者	・レクリエーション体験(楽しい公益型市民活 動)となる森林保全活動、体験学習 ・昆虫採取、ツリーハウス、樹木を切ることや 散策路の安全施設の整備、保全などの体験	・指導者としての公益型市民活動団体の組織化 ・イベント及び継続的活動プログラム企画運営 指導者育成など ・学校教育との連携 ・公共による活動場所の提供 ・公共や企業などによる活動支援	・環境保全に関するモニタリング ・清掃等のボランティア活動 ・自然調査・観察、地誌研究 ・体験学習、環境教育、エコツアーなど のプログラムへの参加と指導やガイド	・公益型市民活動団体の組織化 ・環境学習指導者育成 ・環境保全・育成プログラムの企画運営、広報 (植樹祭、草刈りなど) ・説明板や禁止行為の案内など環境学習の推進 ・裸地の緑化や森林再生の推進 ・遊歩道維持保全整備・作業指導、安全管理
	休日等の活動 目的来訪者				
	ネットワーク 観光の立寄者				
＜野外活動＞ 森と湖に囲まれて 野外活動を行う	日常の活動 目的来訪者	・軽スポーツや水上スポーツの練習(クラブ活 動) 遊具遊び、釣りなど	・家族向けの簡易なレクリエーション空間と しての宣伝 ・夜の活動メニュー(昆虫採集、星空探検など) の充実と指導者の配置 ・ワイルドライフ活動、ネイチャースポーツの 指導、安全管理、管理運営など	・ゴミ、残滓の持ち帰り、利用後清掃の 徹底 ・ワイルドライフ活動、ネイチャースポ ーツの指導、安全管理、管理運営など	・説明板や禁止行為の案内などによる利用制限 ・指導者育成、自警パトロールの実施 ・指定管理者などによる施設維持管理運営
	休日等の活動 目的来訪者	・キャンプ、ピクニック、遊具遊び、軽スポ ーツ、ボート、釣りなど			
	ネットワーク 観光の立寄者	・休息、遊具遊び、ボートなど			
＜環境教育＞ ダムの土木技術を知り、 ダム湖と周辺地域風土を 探検学習する	日常の活動 目的来訪者	・自然観察	・社会見学、遠足学習、写生大会などの学校教 育との連携 ・各種地域興イベントと連携 ・継続的活動プログラム企画運営 ・インストラクター、指導者の配置	・自然調査・観察、地誌研究 ・展示物の維持管理 ・体験学習、環境教育、エコツアーなど のプログラムへの参加と指導やガイド (説明解説役、語り部)	・語り部、案内役、ツアーガイドの育成 ・公益型市民活動団体の組織化と運営 ・指定管理者などによる施設維持管理運営
	休日等の活動 目的来訪者	・ダムの機能、技術、周辺の生態系、歴史風土 など体験学習、自然探索、ハイキング、エコ ツアー、文化的イベントへの参加			
	ネットワーク 観光の立寄者	・ダムの機能、技術、周辺の生態系、歴史風土 などの展示を見学、学習			
＜癒しと健康＞ 森と湖に囲まれて ヒーリング・健康増進	日常の活動 目的来訪者	・森林浴、ジョギング、サイクリング、軽体操 ・健康、医療施設、高齢者保養施設等の利用 ・温浴施設などのセラピー等利用	・施設整備は地域整備に連携できる民間事業者 の誘致が前提 ・医療研究機関(大学など)との連携も考慮 ・高齢者対応(保養施設など)も考慮	・癒しや健康増進活動を通じた交流団体 への参加、啓蒙活動 ・ゴミの持ち帰り、ゴミ清掃	・健康増進、癒し効果持続のための環境保全意 識の向上、環境の維持 ・排水、廃棄物、騒音、などの環境負荷低減 ・電力などへの自然系エネルギーの活用
	休日等の活動 目的来訪者				
	ネットワーク 観光の立寄者				
＜安全な食＞ 山紫水明の環境で 食を楽しむ	日常の活動 目的来訪者	・季節の食材や地物の産物を楽しむ	・口コミでの宣伝 ・特徴的な施設内容(著名料理人、田舎料理バ イキング、自然食レストラン、展望レストラ ン、団体用ジギスカンなど) ・施設整備については民間事業者の誘致が前提 ・販売促進方策やネーミングなどの検討	・自ら作る安全安心な食材の提供 (貸農園、遊休農地の利活用による無 農薬、有機農業など)	・安全な食材供給側としての環境保全(無農薬、 有機農業、作り手の見える農業展開) ・誘致ポイントとしての景観保全、環境保全 ・排水、廃棄物、騒音、などの環境負荷低減 ・電力などへの自然系エネルギーの活用
	休日等の活動 目的来訪者	・山紫水明の景色を楽しみながら地域食材や強 度料理を堪能			
	ネットワーク 観光の立寄者	・地産の自然食、新鮮で安全な食材を楽しむ			
＜地産地消と文化伝承＞ 地産特産品を求める	日常の活動 目的来訪者	・朝市で新鮮野菜、自然食材、加工食材を購入	・施設整備は民間事業者や地元の参画が前提 ・お土産向き生産物の導入栽培、加工品の研究 地元生産品供給団体の育成 ・販売加工従業員の地元雇用 ・販売促進方策やネーミングなどの検討	・遊休農地などでの営農支援活動 ・地産加工品の製造支援活動 ・地元祭り、行事などの企画や支援活動	・地元産業、文化の活性化による環境寄与への 再投資余力増強 ・無農薬、有機農業、作り手の見える農業の展開 ・地域素材を利用した安全な商品の製造と供給 ・排水、廃棄物、騒音、などの環境負荷低減 ・電力などへの自然系エネルギーの活用
	休日等の活動 目的来訪者	・農林水産関連の地場特産の土産物の購入 ・観光体験農業により収穫を得る			
	ネットワーク 観光の立寄者	・周辺地域の風土や人柄に触れる人的交流 ・地域情報や活動、イベント情報などの入手			

注) 来訪者属性は、日常の活動目的来訪者(ほぼ毎日利用する近隣住民等で、1~2時間の滞在)
休日等の活動目的来訪者(休日等に本地域レクリエーション活動利用目的で来訪する周辺地域住民、広域からの来訪者等で滞在時間は半日~宿泊)
ネットワーク観光の立寄者(他地域や周辺の観光時における立ち寄りの来訪者で、滞在0.5~1時間)

(2) 来訪目的に応じた空間整備の方向性

将来に安威川ダム周辺を訪れる人々の主たる目的及びその行動パターンに対し、環境享受と環境寄与のバランスを保ちながら、現況資源を適切に利用する観点に根ざした空間整備の方向性を以下に示した。また、ダム建設事業に伴い整備される新たな道路網を利用した散策やサイクリング向けのネットワークルートが考えられる。

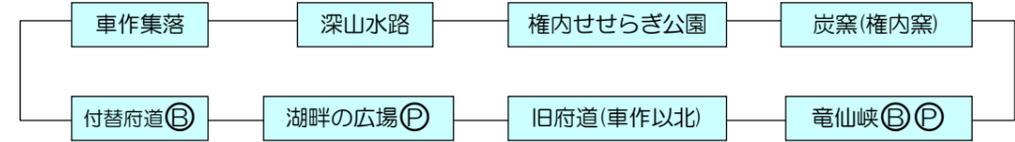
来訪の主たる目的	空間整備の方向性		
	空間整備の内容	適正立地要件	備考
＜水環境＞ ダム湖の水環境を楽しむ (水辺、湖面、溪流)	●ダム湖に映える森林景観 ●眺望ポイントとそれらをつなぐ散策道、サイクリング道	・眺望の開ける高台平坦地など ・ダム天端、ダム湖左岸道路沿道、付替府道橋梁部 ・既設自然歩道、生保半島の高台 ・竜仙峡周辺の溪流沿い	BE GI
	●水辺を彩り、渡り鳥などの休息地となる、再生された湿地帯や水生植物群落 ●水生生物や鳥類の生息環境の保全	・常時満水位近くの湖面に隣接した低い標高の平坦地 ・段川、大岩川などの流入河川の河口付近の平坦地 ・既存生態系の保全区域	ABD
＜環境保全＞ 美しい森と湖の 環境保全活動を楽しむ	●保全・再生された森林空間 ●利用可能な森林空間 ●森林の中に立地する里道等利用の散策道	・河川区域内を含む公有林 ・周辺民有林内での活動エリアの確保	CD FI
	●公益型市民活動を支援する拠点施設(更衣室、シャワー、談話室、用具倉庫など)	・アクセスの利便性 ・一般の目につきやすいところ(公益型市民活動者の底辺を拡大するため)	DE
＜野外活動＞ 森と湖に囲まれて 野外活動を行う	●ピクニック園地、キャンプサイト、芝生広場、軽スポーツ広場、展望施設、遊具園地など	・ダム湖眺望が得られる平坦地 ・付替府道からのアクセスが可能 ・キャンプサイトは集落、幹線道路から隔離できる位置	DE
	●釣り、ボート、カヌーなどの水辺、水面のレクリエーション活動の拠点、管理施設	・湖水域に出易い低地帯(洪水予報時には待避必要) ・平坦地が確保できる車作代替農地前面付近 ・溪流釣り、湖水釣りの各サイトが立地可能な環境	BD
＜環境教育＞ ダムの土木技術を知り、 ダム湖と周辺地域風土を 探検学習する	●ダム及び地域のインフォメーション施設 ●展望施設、休憩施設 ●現地の案内看板 ●ツアーガイド・案内詰所	・ダムサイト近傍または展望所近傍 ・風土資源等は現地の案内看板が必要	G
＜癒しと健康＞ 森と湖に囲まれて ヒーリング・健康増進	●健康、医療関連施設 ●高齢者保養施設 ●温浴関連施設(足湯、クアハウスなど) ●散策道、展望所、軽スポーツ広場	・ダム湖の眺望が得られる平坦地など ・既存集落内も可能 ・駐車場が確保できる地形	DE
＜安全な食＞ 山紫水明の環境で 食を楽しむ	●休憩・展望施設 ●飲食サービス施設 ●販売施設	・ダム湖の眺望が得られる平坦地など ・既存集落内も可能 ・駐車場が確保できる地形	DE
＜地産地消と文化伝承＞ 地産特産品を求める	●物産販売所、加工所 ●キャンプ場の食材提供機能 ●体験農地の提供、農業指導 ●地域情報、活動イベントなどの情報提供施設	・付替府道沿道(新名神へのアクセスルート途上)の平坦地 ・駐車場が確保できる地形	E

※備考欄の番号は3頁の空間特性図の箇所番号を示す。

■ 新たな散策等ネットワークルート(案)

※ ㊤=バス停想定 ㊦=駐車場 位置を示す(想定)

＜溪流散策ルート＞ 溪流、溪谷沿いの散策・山歩き



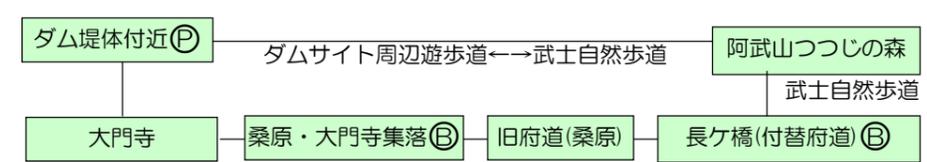
全ルート：約6.5km

＜湖周ルート＞ 散策・ウォーキング・ジョギング・サイクリング・風景探勝など



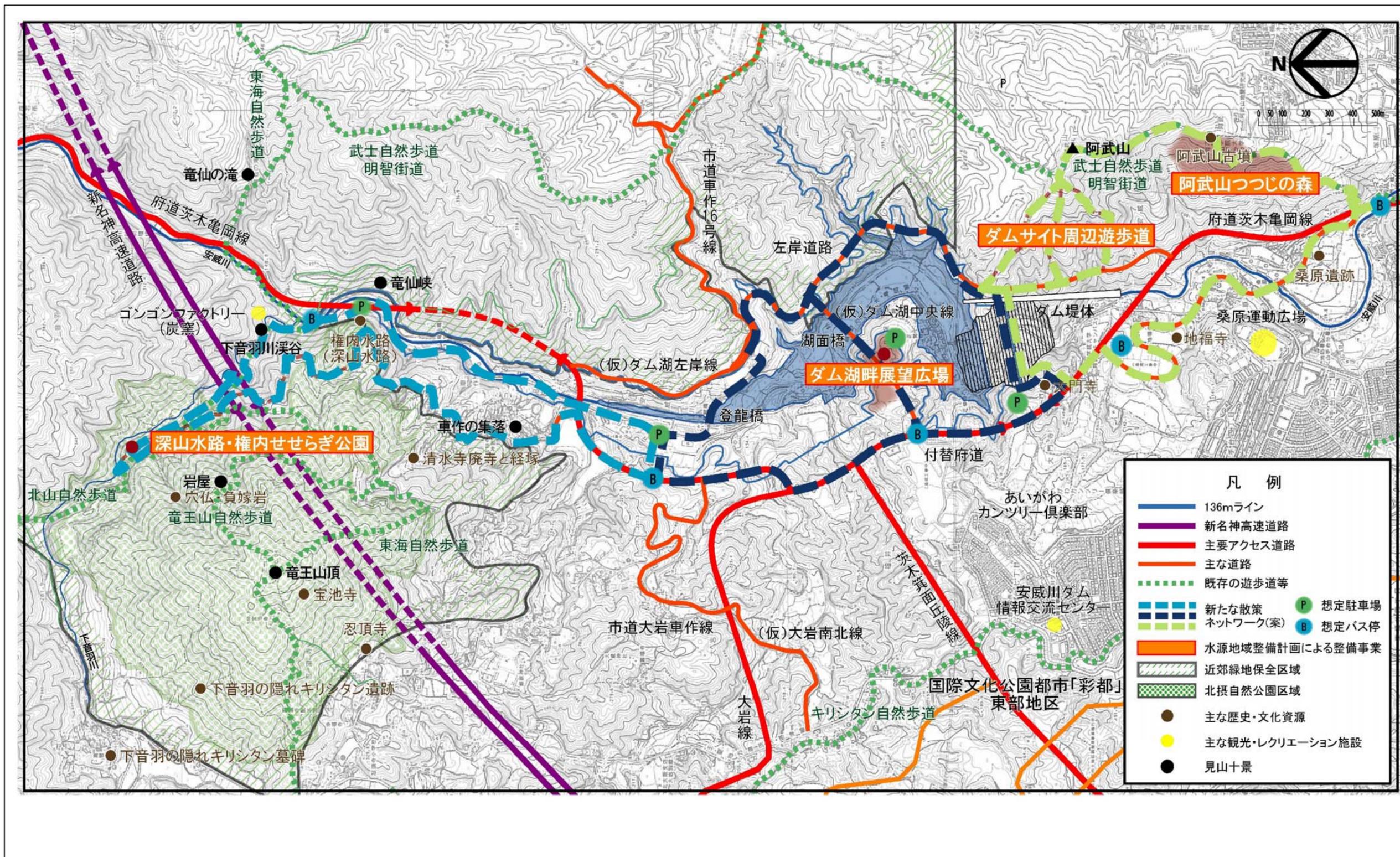
1周コース約5.0km

＜ダムサイト眺望コースルート＞ ダム見学・山歩き・散策・風景探勝



全ルート：約5.5km

■新たな散策等ネットワークルート図（案）



3. 周辺景観整備の進め方

安威川ダム建設工程は、水没家屋や農地の移転が完了し、用地買収もほぼ完了に近づいているが、本体は着工には至っておらず、周辺の地域整備を進める施策も積極的に推進するに至っていない。しかしながら基本理念の目指す地域整備は、平成20年代半ばにロックフィルダム盛立ての完了を目指して進めているダム事業と併せて、可能なことから検討あるいは実施を進めていく必要がある。

この中で、周辺空間の主たる景観要素となっている森林景観や溪流景観の保全と、将来出現するダム湖の水辺景観を美しく創出させるための方策は、空間整備の中でコア的なものと位置付けられ、ダム事業と並行して進めていくべきものである。

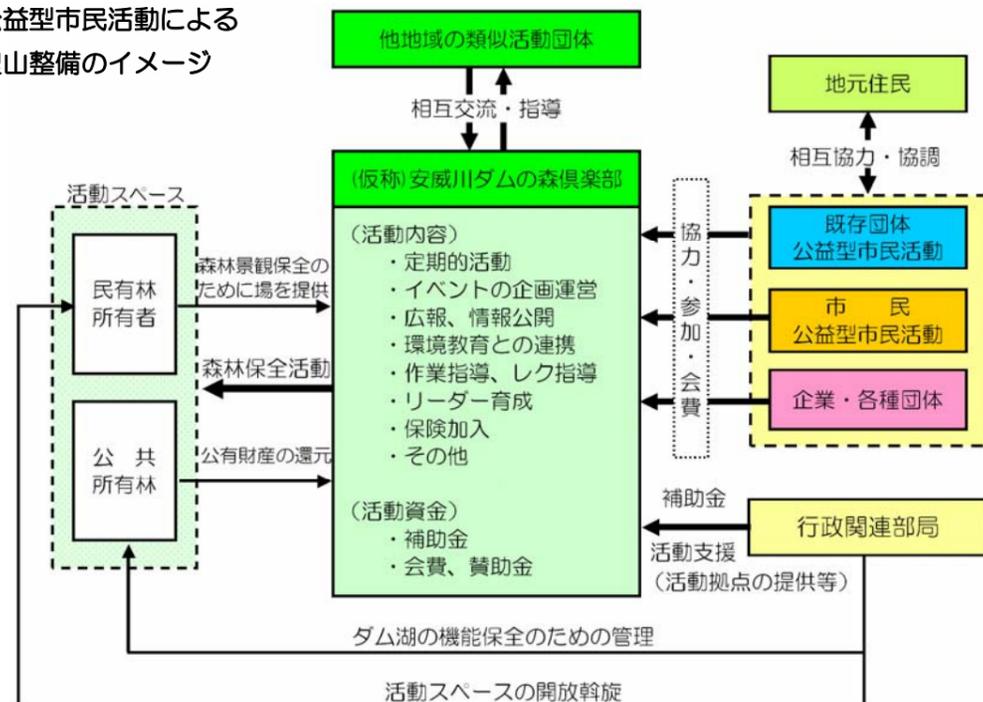
(1) 周辺森林景観の保全・再生と利用

桜や若葉の季節、繁れる青葉の季節、紅葉の季節、また、冬枯れから雪の季節と、森林は四季さまざまに変化し、その時々々に人の目を楽しませてくれる。溪流とダム湖はこれらすべてを水面に映し出し、森と湖のパノラマを展開する。「美しいダム湖」は周辺の森林も美しく保全される必要があり、そのため、安威川ダムの事業区域内はもとより、周辺の民有林においても所有者の協力の下に、景観保全と眺望探索などの利用に配慮した森林保全が求められる。

安威川ダムの事業区域を含む公有林の保全は、ダム湖の機能保全のための管理の一環で公共事業として行うと同時に、公共用地の府民への還元という面から、森林保全をレクリエーションとして位置づける民間の公益型市民活動団体との協同や、民間事業者が社会貢献事業として行うメセナ事業の一環として取り組めるようなシステムとその支援策の検討が望まれる。そのことで、民間の環境保全への意識増進や環境学習が促進され、公共事業投資の効率化にもつながる。

- ダム事業による造成地盤の植生再生
- 試験湛水時の冠水樹林帯の植生再生と公有林の府民利用への還元
- 公益型市民活動兼レクリエーション活動としての周辺民有林の（里山）協力による植生保全及び利活用の促進とその支援方策などの検討

■公益型市民活動による里山整備のイメージ



(2) 水辺景観の保全・創出と利用

安威川ダムは洪水調節、流水の正常な機能の保持、水道用水の供給を目的とするダムであり、計画上、洪水時や濁水時には常時満水位から最大10m~15mの水位差を生じるが、通年で湖面水位はほぼ安定すると思われる。そうなれば、通常の水面利用のレクリエーション活動が可能となり、湖面に映る森林景観の中、水面での美しい活動が水面景観を彩る。

また、溪流から広大な水面への転換により、水生生物の新たな生態系の出現や、渡り鳥等の飛来も考えられ、水辺には柔らかい水草等の植生で水生生物の生育環境の確保や、渡り鳥のえさ場や営巣地ともなる湿地帯とその植生整備も水辺の景観要素となる。

さらに溪流から転じる美しいダム湖のきれいな水質を維持するため、安威川上流からの濁水対策や、耕作地や集落に起因する、流入河川による富栄養化対策が必要である。なお、洪水時に冠水が想定される低地帯については、容易に復旧できることに配慮した土地利用の検討が必要となる。

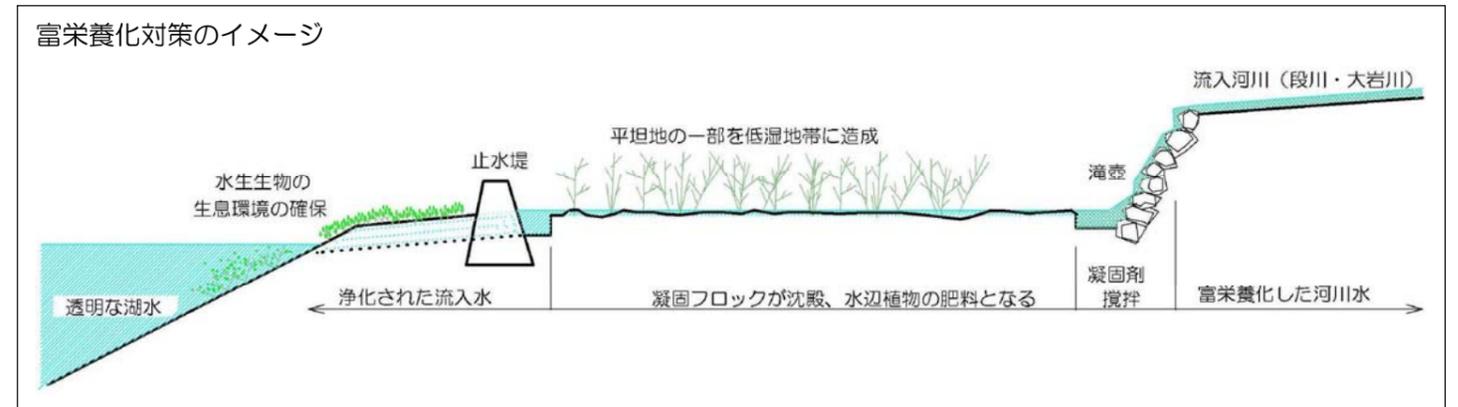
- 常時満水位で水没しない溪流や農地跡地の保全（水際の植生の管理）
- 富栄養化対策などの水質保全対策の検討・実施
- 出水後のダム湖及び周辺の濁水対策の検討・実施



湖面のレクリエーション活動



湿地と渡り鳥イメージ（片野鴨池）



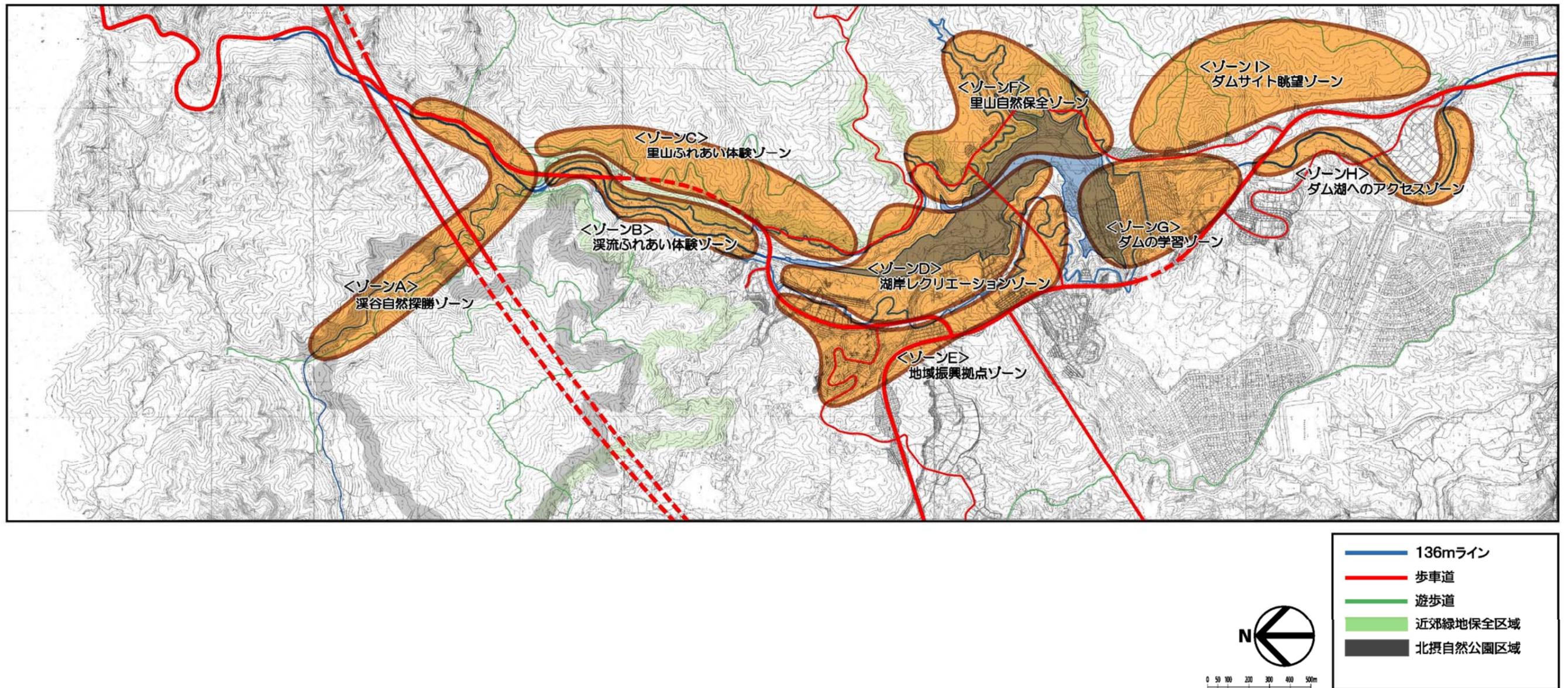
富栄養化対策のイメージ

4. グランドデザイン（案）

今後、事業者である公共主体等が、自然環境の保全と利用との良好なバランスのもと、地域の有する多様な資源の有効利用を図ることで、ダムやダム湖という新たな空間の活用や地域にふさわしい整備と保全を将来的に進めるための一指標とすべく、安威川ダム周辺整備のあり方を示すものとし、ゾーニングおよび基本方針の設定を行う。

検討においては、安威側ダム周辺の現況や目指すべき方向性、基本理念や基本方針、場所ごとの空間特性や想定される来訪者の行動パターンなどを総合的に判断し、その結果、以下の9つのゾーンに区分された。

■ゾーニング図



先に示したゾーニング図に基づき、ゾーン毎の環境寄与（保全）と環境享受（活用）の方針をまとめたものが下表である。
これを用いて、安威川ダム周辺整備のあり方における基本方針とする。

■各ゾーンの環境寄与(保全)・環境享受(活用)の基本方針

ゾーン区分	現況土地利用特性	環境寄与(保全)の方針	環境享受(活用)の方針	整備イメージ(例)
<ゾーンA> 渓谷自然探勝ゾーン	・北摂自然公園内 ・オオサンショウウオ、ヤマセミが生息 ・炭窯、権内水路（深山水路） ・権内せせらぎ公園（既定計画）	・下音羽川、安威川上流の渓谷と森林の自然環境を保全することに重点を置く	・既存の自然歩道を利用し、沿道に歴史資源（深山水路）、伝統文化体験施設（炭窯）などと連携した小規模な空間整備も考慮する	・既設散策道の更新、休憩所の整備（ベンチ、東屋等）〈改〉 ・深山水路沿いの散策道や空間整備（権内せせらぎ公園）〈改・創〉 ・既存炭窯の保全と活用（体験学習型）〈改〉 ・渓谷、現況森林環境の保全、再生整備〈保・再・活・改〉
<ゾーンB> 溪流ふれあい体験ゾーン	・竜仙峡、溪流釣り（漁業組合） ・オオサンショウウオ、アジメドシヨウが生息 ・現府道が残され、溪流沿いの施設跡地の平坦地の利用が可能	・竜仙峡に代表される溪流環境を引続き保全することに重点を置く	・小規模な面的整備や溪流に近づけるような工夫をするなど、溪流沿いの良好な散策空間となるようにする ・空間用途を広げることで、付加価値を高める	・現府道を利用した溪流散策道（ゾーンAの既設自然歩道と連続ループ構成）〈改〉 ・水辺へアクセスする工夫〈改〉 ・溪流釣りの場〈改〉、キャンプ場〈改〉 ・渓谷、現況森林環境の保全、再生整備〈保・再・活・改〉
<ゾーンC> 里山ふれあい体験ゾーン	・キツネノカミソリの群生地に近い ・棚田、ため池の立地 ・左岸道路が新設される	・山林空間や棚田、ため池空間を良好に保全することを基本とする	・既設自然歩道（林道）沿いの場所を選び、ダム湖を眺望する箇所を整備し付加価値を上げる ・周辺里山内の里道の整備により、左岸道路や湖面とのアクセス機能を高める（里山保全活動や、棚田を利用した体験農業の場となりえる）	・既設自然歩道の更新、沿道の展望休憩所〈改〉 ・林間散策道（里道利用など）〈再・活・改〉 ・渓谷、現況森林環境の保全、再生整備（里山保全ボランティア団体の活動の場）〈保・再・活・改〉 ・ダム湖左岸道路をサイクリング、ジョギング、散策利用〈改・創〉
<ゾーンD> 湖岸レクリエーションゾーン	・湖面の左右岸の水際に広大な平坦地が展開 ・右岸側と左岸側が、登龍橋によって相互にアクセスが可能 ・右岸に冠水頻度の低い広大な造成平地（公有地） ・左岸にゴルフ練習場跡地が立地（公有地）	・自然環境が改変された部分は、早急に自然再生や自然創出を図る ・水際は柔らかい草の植生が確保されるように努め、水辺生物や水生生物の生息環境の確保に配慮する	・平坦な利用可能地があり、ゾーンEと併せてダム湖周辺の拠点的ゾーンとする ・右岸側の造成平地は1/30年確率以上の冠水範囲であり、水際から遠い反面、眺望が期待できることから、利用者ニーズに合わせた整備を図る（駐車場や小規模な建物等） ・左岸側のゴルフ練習場跡地は、左岸側拠点としての整備も考慮する	・湿地帯の整備（生物生息環境の創出、流入河川水浄化機能）〈創〉 ・カヌー、ボート乗り場（係留施設、乗船台、艇庫、駐車場、仮設管理施設など）〈創〉 ・広大なピクニック園地、デイキャンプ場、駐車場〈創〉 ・ダム湖管理船の係留施設〈創〉
<ゾーンE> 地域振興拠点ゾーン	・コア材採取跡地、造成協力地（いずれも民有地） ・生保半島に既設グラウンドの他、ダム湖畔展望広場（既定計画） ・彩都東部地区（計画）に隣接 ・新名神ICから市街地への幹線アクセスルート（既定計画）に接道 ・代替農地、ほ場整備	・自然環境が改変された部分は早急に自然再生や自然創出を図る ・将来、人為的利用を予定している区域であっても、暫定的な緑化修景推進策として花畑、芝生広場、草原などに活用する	・造成協力地（民有地）を含む付替府道沿いのゾーンであり、ダム湖畔への集客や来訪者へのサービスを目的とした施設配置を考慮する ・付替府道に接し、かつダム湖畔の景観を構成する主要ゾーンとなるため、周辺環境への影響をできるだけ緩和し、景観に調和した整備や保全となるように配慮する ・地域振興に寄与する内容規模の民間開発を誘導する ・周辺農地は、食材の供給や体験農業の企画も考慮する	・ダム湖を眺望する拠点整備（ダム湖畔展望広場）〈改・創〉 ・付替府道沿いのサイクリング道などのネットワーク整備〈改・創〉 ・地域物産提供施設（朝市、物販、飲食、地域情報の提供）〈創〉 ・展望レストランの誘致〈創〉 ・健康、医療関連施設の誘致〈創〉
<ゾーンF> 里山自然保全ゾーン	・左岸道路（既定計画） ・林間の武士自然歩道 ・良好な自然環境の溪流が湖面へ流入	・湖面へ流入する溪流は良好な自然環境を有しており、現況の保全に重点を置く ・左岸道路を除き、湖面から山地にかけて現況森林が残される箇所であり、景観緑地としての良好な保全に配慮し、積極的な山林空間の利用は基本的に制限する	・自然環境保全活動（里山保全活動の場となりえる）や従来の山林の利用にとどめる	・ダム湖左岸道路沿いの湖面を眺望する散策道、サイクリング道などのネットワーク整備〈改・創〉 ・流入する溪流、現況森林の保全、再生整備（里山保全ボランティア団体の活動の場）〈保・再・活・改〉
<ゾーンG> ダムの学習ゾーン	・ダム堤体及びダム直下には平坦地が創出される（既定計画） ・大門寺	・自然環境が改変された部分は、早急に自然再生や自然創出を図る ・ダム完成時の暫定的な緑化修景促進策として花畑、芝生広場、草原などに活用する	・レクリエーション空間としての整備の他、ダム堤体を含む施設見学に配慮した整備を工夫する ・ダム直下と天端付近からダム上流との歩行者動線が確保できるような整備を考慮する	・ダム堤体を含む施設を見学など社会学習、体験学習の場として開放〈改・創〉 ・ダム天端を常時開放し、ダム直下～ダム天端～左右岸～ダム上流とつながる散策ルートとしての利用〈改・創〉
<ゾーンH> ダム湖へのアクセスゾーン	・桑原遺跡 ・ほ場整備 ・安威川改修	・ダム直下の洪水吐からつながる河川については現在の溪流環境の保全に努めると共に、溪流利用を継続できるように配慮する	・下流部については、ほ場整備や河道改修と合わせた自然環境の創造や保全、川沿い及び集落やさらに下流河川とのネットワークの形成に配慮する ・ほ場整備された農地は、食材供給地としての活用も考慮する	・ダム直下の溪流は、アウトドア活動の場、水際での自然観察、環境学習としての利用〈改〉 ・下流部の河川沿いは、安威川下流部からダムへつながるネットワークとして利用〈改〉
<ゾーンI> ダムサイト眺望ゾーン	・武士自然歩道、阿武山古墳 ・ダムサイト周辺遊歩道整備（既定計画） ・阿武山つつじの森整備（既定計画）	・良好な植林地としての現在の山林環境の利用と保全に重点を置く	・阿武山古墳や武士自然歩道（明智街道）といった既存の歴史資源を保全し、休憩施設を兼ねた眺望箇所を整備し、付加価値を高める（里山保全活動の場となりえる） ・阿武山とダム堤体付近をつなぐ歩行者動線を確保する	・阿武山とダム区域を結び眺望できる散策ルート（ダムサイト周辺遊歩道整備）〈改・創〉 ・阿武山古墳から武士自然歩道（明智街道）を抜ける歴史探訪ルートとして利用（里山保全ボランティア団体の活動の場）〈保・再・活・改〉 ・森林組合と連携した体験学習の場（阿武山つつじの森整備）〈保・再・活・改〉

注）整備保全のイメージ欄中 〈保〉は現状保全、〈再〉は保全状態への再生、〈活〉は現状のままの活用、〈改〉は現状を改善して利用、〈創〉は新たな施設の創出 にあたる事項を示す。